

2022年度 水辺の「小さな自然再生」現地研修会

開催を希望する “現場” を募集します

(2022年6月10日(金) 応募〆切)



2022年5月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

様々な主体と協働しながら、多種多様な生きものが生育・生息できる環境づくりに取り組む仲間を増やし育成することを目的に、今年度も「小さな自然再生」現地研修会を開催します。

現地の川づくり・流域づくりの担い手の方々、研修会一般参加者、そして「小さな自然再生」研究会の専門家とともに、身近な水辺でできる小さな自然再生の見直しを通じて、技術やノウハウ、工夫等を一緒に学ばせて頂くフィールドがあれば、是非ともご応募ください。

下記募集要項をご確認の上、ご興味のある方はご応募、ご相談をお待ちしております。

【応募条件】

水辺の小さな自然再生に関わる取組みを既に実践している、またはこれから取組もうと考えている現場を有する川づくりの担い手の方々（市民団体、河川管理者、研究者、実務者 etc.）

※ご応募頂いた後、JRRN 事務局より詳細のご相談をさせて頂き、開催について調整させて頂きます。

【“応募者” と “JRRN” の主な役割分担】

◇応募者：現場作業に向けた地元調整（管理者等との調整、資材調達、地元広報 等）

◇JRRN：専門家推挙・派遣（旅費・謝金等の費用負担含む）、座学会場手配（会場費含）

地元外広報、研修会進行、研修会成果とりまとめ・普及 等

※研修プログラムは応募者のご要望を踏まえ JRRN や研究会専門家と一緒に考えます。

【応募期間 及び 今後のスケジュール】

◇応募期間： 2022年5月23日(月)～6月10日(金)

◇今後のスケジュール： ※新型コロナウイルス感染拡大状況により変更の場合があります

・～6/10(金)： 開催を希望する現場の公募

・～6月末： 各開催候補地との調整 → 開催地を決定（3箇所程度）

・7月～： 企画調整 及び 開催に向けた準備開始

・10月～11月頃： 「小さな自然再生」現地研修会の開催（3回程度）

【応募方法】

氏名、所属、連絡先（住所・電話・e-mail）とともに下記申込先まで Eメールにてご応募下さい。

【応募申込み・お問い合わせ】 E-mail: info@a-rr.net

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 担当： 和田彰・白尾豪宏

〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-24 NMF 茅場町ビル 7F（公財）リバーフロント研究所内

Tel: 03-6228-3861 E-mail: info@a-rr.net Website: <http://www.a-rr.net/jp/>



Collaborative Nature Restoration
「小さな自然再生」研究会



公益財団法人
リバーフロント研究所



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

技術向上の場づくり ～「小さな自然再生」現地研修会～

目的

本研修会は、小さな自然再生の考え方、留意点、現場の工夫等を、実際の現場での活動に参加しながら学び、研修参加者の知識と技術の向上及び本分野の知見を蓄積することを目的としています。合わせて、本研修を通じ、研修受入先や研修参加者と技術交流を深め、小さな自然再生に関わる情報交換と交流のコミュニティ醸成も図ります。

研修内容

研修内容①：座学研修

「小さな自然再生」の基本知識や現場での留意点等に関して、講師による座学研修を行います。



現場を歩きながら、川の特徴や課題、実施可能な小さな自然再生の進め方について議論します。

研修内容②：現地踏査



研修内容③：ワークショップ

課題（テーマ）に対して、現場の状況を踏まえ、各グループで小さな自然再生のアイデア出しを行い、全体討論で最適案を議論します。



河川管理者の協力が得られる場合、現地実習として、参加者による「小さな自然再生」の施工演習を行います。

研修内容④：現地実習



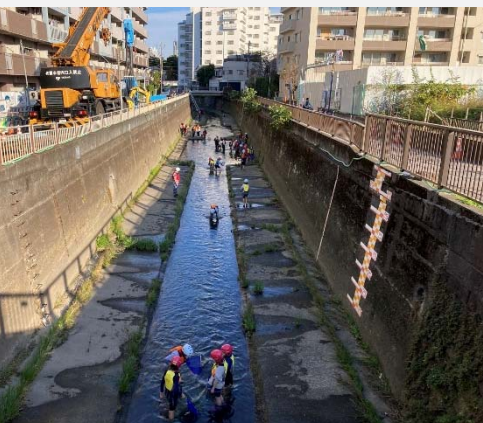
「小さな自然再生」現地研修会 開催地位置図



「小さな自然再生」現地研修会の開催実績

2015年度よりスタートした「小さな自然再生」現地研修会は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成をいただきながら、2021年度までの7年間で計14回開催しております。

回	開催日・開催場所	(上段) 共催 / (下段) テーマ
1	2015年9月8日 愛知県豊田市・岩本川	豊田市矢作川研究所 岩本川でできる小さな自然再生を考える
2	2015年12月17日 滋賀県長浜市・高時川	滋賀県 瀬切れ時の水棲生物の避難場所を創出するための川づくり
3	2016年7月29日 福岡県福津市・上西郷川	上西郷川日本一の郷川をめざす会 間伐材水制による瀬淵環境の再生
4	2016年10月28日 兵庫県宝塚市・武庫川	兵庫県県土整備部土木局武庫川総合治水室 魚類の生息・遡上環境の改善～ウナギ石組や落差工対策
5	2016年12月8日 千葉県白井市・神崎川	神崎川を守るしろい八幡溜の会、白井市 西白井・神崎川上流部を地域資源として効果的に活用するには？
6	2017年10月17日 福井県福井市・日野川/志津川	国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所、福井県 魚類の遡上環境の改善 ～九頭竜川流域の連続性確保に向けて～
7	2017年12月6-7日 岡山県西粟倉村・吉井川流域	エーゼロ株式会社、応用生態工学会（大阪地区会、岡山地区会） 吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何かできるか？
8	2018年2月27日 秋田県大仙市・斉内川	秋田県建設部河川砂防課 道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出
9	2020年11月13日 愛知県名古屋市・矢田川	愛知県建設局河川砂防課、矢田・庄内川をきれいにする会 事前モニタリングで学ぶ土砂移動（河道内地形）
10	2020年11月24日 秋田県大仙市・斉内川	（公社）全国土木コンクリートブロック協会東北地区協議会秋田県支部 多自然をモニタリングする
11	2020年11月28日 京都府美山町・美山川	NPO 法人芦生自然学校 森と川のつながりを考える
12	2021年11月14日 東京都中野区・善福寺川	青少年育成鍋横地区委員会 “なべよこ善福寺川探検隊” 自然観察から都市河川でできることを考えよう
13	2021年11月21日 滋賀県守山市・大川	淡海を守る釣り人の会 河口部・内湖の保全と再生を考える
14	2021年11月28日 北海道釧路市・釧路川	釧路自然保護協会 釧路川支川の魚類生息環境を再生する



2021年度に開催した「小さな自然再生」現地研修会の様子（左：東京都、中央：滋賀県、右：北海道）

研修会の開催候補地のイメージはこんな感じです

小さな自然再生とは？ <http://www.collabo-river.jp/>

次の3条件を満たす取組みを「小さな自然再生」と定義しています。

- (1) 自己調達できる資金規模であること
- (2) 多様な主体による参画と協働が可能であること
- (3) 修復と撤去が容易であること

① 河川管理者の協力が得られる現場であること

できれば座学のみではなく、川に入っの小さな自然再生活動までを研修会を通じて実施できればと考えております。

その場合には、河川管理者の許可が得られる現場であることが条件となります。

これまでの研修会では、共催や後援、協力として現場の河川管理者に協力頂いておりますが、研修会開催の合意形成や事前手続きの簡素化、また研修会以降の活動の継続性等を考慮すると、河川管理者の応援を得た行事とすることはとても大切なことです。(必ずしも「連携」できていなくても構いませんが、河川管理者が反対している現場においては、強引に開催することはありません。)

② 地元に活動主体がいること

現場に活動主体がいることが重要な条件です。現地研修会を一過性の打ち上げ花火にせず、研修会がきっかけとなり、これまでの地元の活動が更に充実すること、または新たな活動が動き出すことを後押しすることに研修会の狙いです。そのためにも、地元の主役(団体)の存在が大切な開催条件となります。

③ 準備や当日の運営に際し地元主体とJRRNで役割分担をして協働できること

本資料冒頭で触れている通り、地元主体とJRRNで以下のような分担をしながら「協働」で企画開催させていただきます。

<地元に担って頂くこと>

おすすめの現場の提案、河川管理者との調整、地元関係者への広報、資材等の可能な範囲の調達 etc.

<JRRNが担えること>

地元のニーズを踏まえたプログラムの提案、講師招聘(費用負担も)、河川管理者との調整のサポート、座学会場やバス手配(費用負担含む)、地元以外の広報、工具等のレンタルや購入、研修成果のとりまとめ、研修成果の普及

たくさんの皆様からのご応募、ご相談をお待ちしております。

【お問い合わせ】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 (担当: 和田彰・白尾豪宏)
〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7F (公財)リバーフロント研究所内



リバーフロント研究所 Tel: 03-6228-3861 E-mail: info@arr.net Website: <http://www.arr.net/jp/>